

生保産業における仕事と生活の両立に向けた取組みを紹介

生保労連では、生保産業や労働組合の役割について理解浸透・拡大をはかるため、連合の関連団体・教育文化協会が実施する「連合寄付講座」等に講師を派遣しています。12月9日には中央大学で小山副書記長が、1月8日には埼玉大学で日下部書記長が講義を行いました。その中で、生保産業における仕事・働き方や、仕事と生活の両立に向けた取組みについて、自身の経験や生保労連の取組み等を交えて説明しました。また、リーフレット「自分らしく生きるために！」を活用し、学生たちに若いうちから生活設計を考えることの重要性を伝えました。



中央大学での様子

「ワーク・ライフ・バランスとキャリアデザインについて」をテーマに講義を行いました。生保産業におけるワーク・ライフ・バランスの取組みを説明するとともに、これから社会に出る学生たちが「働くこと」について考える「きっかけ」となるよう、自身が職業選択をする際に大切にしていたことや、仕事に向き合うにあたり、今、自身が大切にしている考え等を紹介しました。



▲自身の経験を交えて説明する
小山副書記長

埼玉大学での様子

「生命保険産業における仕事と生活の両立に向けた取組み」をテーマに講義を行いました。当日は、生保産業の仕事に関し、特に機関長の働き方に焦点を当て、いかにして業務量の多い機関長の総労働時間を短縮するか、解決の方向性等を提示しながら学生たちに分かりやすく説明しました。



▲生保産業での働き方等について説明する
日下部書記長

学生の感想

- 生命保険の大切さを知るとともに、生保産業が日本の国家予算を超えるほどの市場規模であることを知って驚いた。
- 生保産業は女性職員の割合が高く、結婚や出産を機に仕事を辞める人は少ないことを聞き、こうした流れが他産業にも広がっていけば良いと思った。
- 長時間労働が美德とされていた時代から脱却し、労働時間の短縮に向けて労使が一体となって働き方を変えていこうとする動きは大変興味深く感じた。
- 生保産業におけるワーク・ライフ・バランス実現に向けた具体例を聞き、仕事と生活を両立することの大切さを学んだ。
- 生保産業は労働環境の整備が他産業と比べて進んでいる印象を受けた。就職活動に向けて色々調べたいと思った。